



笑顔で
頑張ります!

大窪ヨシ子さん(68) YC日立東部(茨城北部地区)

新聞販売店とはこういうものか

と思いながら、仕事にはすこつ

と入っていけた」と当時を思い

と出します。

「働きたいと思っていたところ、店の前に貼り出されて、いた事務員募集の貼り紙を見て、仕事の内容はよくわから

ないけれど、とにかくやってみようと応募しました」と振り返る。

時代はオイルショックを経て成長経済への移行期で、新聞はまだ伸びていた。

「日立の街もお店も活気にあふれ、チラシなんかもすぐかた。集金した現金を計算したり、領収書を作ったり、

好きで、お客様に對しては自然な振る舞いで対応し、どんな時も気持ちよく感じてもらえるよう心がけたという。34年間を振り返って、「幸せだったなあ」「感謝しています」という言葉が何度も飛び出した。

現在のYC日立東部の佐久間和彦所長は5人目の上司だが、若い頃からの知り合いだ。

「15年くらい前に日下新聞店に営業で応援に行った時に案内してくれたのが大窪さんでした。いろいろサポートしていたんだいたし、今でも本当に心強い戦力です」と信頼は厚い。家族は子どもが独立し、今は夫と水入らずの2人暮らし。空いた時間は好きな庭いじりや旅行を楽しんでいる。

お客様対応は自然な振る舞いで

1978年、JR日立駅前の日下新聞店に入店した。

1978年、JR日立駅前の日下新聞店に入店した。

新聞販売店とはこういうものか

と思いながら、仕事にはすこつ

と入っていけた」と当時を思い

と出します。

以来、同じ店で5人の所長に仕えた。顧客情報管理や電話応対など通常の事務業務のほか、集金も担当した。人と会うのが

好きで、お客様に對しては自然な振る舞いで対応し、どんな時も気持ちよく感じてもらえるよう心がけたという。34年間を振り返って、「幸せだったなあ」「感謝しています」という言葉が何度も飛び出した。

現在のYC日立東部の佐久間和彦所長は5人目の上司だが、若い頃からの知り合いだ。

「15年くらい前に日下新聞店に営業で応援に行った時に案内してくれたのが大窪さんでした。いろいろサポートしていたんだいたし、今でも本当に心強い戦力です」と信頼は厚い。家族は子どもが独立し、今は夫と水入らずの2人暮らし。空いた時間は好きな庭いじりや旅行を楽しんでいる。



YC初石
(千葉北部地区)

北川 久敏さん(30)

配達語 雨ニモ負ケズ

配達を担当している千葉県流山市美田地区の住民で作る自主防犯パトロール隊「美田バスタークラブ」に昨年10月、特別に入隊させ

ていただきました。配達の時はそのクラブ専用の防犯ベストをお借りし、必ず着用して見守り活動をしています。

新米スタッフ奮闘記



小池 義彦さん(30)

南信地区・YC伊那箕輪
2011年10月入店

質問

- ① 入店の動機
- ② 業務内容
- ③ これまでの成果
- ④ 将来の目標

読売新聞の折り込みで正社員募集の広告を見て応募しました。それまでは自営業や派遣社員だったので正社員という言葉にひかれました。代配のほか、集金400軒と営業を担当しています。

① 以前、ハウスクリーニング店を経営していた時に培った営業経験を生かして、お客様とコミュニケーションをとることを常に心がけています。最近になってお客様から話しかけられることも多くなりました。人間関係が築けると契約の話もしやすいですね。

② 地域に溶け込み、地域に愛されるスタッフになりたい。そして、将来は所長になることをめざして頑張りたい。

入隊のきっかけは、昨年10月にパトロール隊員の読者宅を訪問した際、同クラブの活動について聞き参加したくなつたからです。先輩スタッフの青木裕之さん(29)に相談したところ、「いいね、いつしょにやろうよ」と賛同してくれたので、2人で自治会長に「地域のために力になりたい」と懇願し、入隊許可をいただきました。

防犯ベストを着けて配達していると、皆さんが「頑張ってるね。今度、読売新聞取つてあげるよ」と声をかけられるまでになりました。営業目的で始めたわけではありませんが、うれしいことです。